いーぱるだより No.4

発行：平成31年1月1日　東部地域づくり協議会

人生100年時代に備える地域づくり

東京大学高齢社会総合研究機構
特任講師　後　藤　　純

いまコミュニティ（地域社会）は、３つの高齢化に直面しています。まず居住者の高齢化です。日本人の平均寿命は、女性が約87歳、男性が約81歳です。高齢者（65歳以上）に限定してみると、女性は約93歳、男性は約89歳と、まさに人生100年時代の到来です。悩ましいのは、子ども夫婦と同居している高齢世帯は１割しかいません。一人暮らし、夫婦二人暮らし世帯が約６割です。もちろん20年前と比べれば社会保障も充実しており、介護保険制度もあり、高齢者の８割は生活に満足をしていると答えています。他方で、７割の高齢者は将来に不安があるとも応えています。高齢者の不安の根本には、人生100年時代を、自分らしく、夢や希望をもって暮らしていく将来像が見えないことがあるのではないでしょうか。2つ目は、コミュニティそのものの高齢化です。図のとおり、「い・しょく・じゅう」が総合的に整備されていることが大切ですが、たとえば集会場のトイレが和式では膝関節が痛いと使えません。ベビーカーと手押しカートがすれ違えない歩道では、道路側に落ちるのではないかと、ひやひやします。暮らしのあらゆるところが高齢化に対応できていません。3つ目は、ご承知のとおり住民自治組織、民生委員等担い手の高齢化です。

これら3つは相互に関連しています。コミュニティに活力があったころは、40～50歳代の同一世代が塊としてあり、また子どもを介して顔を合わせる機会が沢山ありました。しかし現在は、40～80歳代まで居住者の年齢層が薄く広がっています。世代毎の考え方が違うというよりも、生活習慣が違うことにより、顔を合わせる機会が減っています。挨拶はできても、その後が続かないのは、多世代が交流するための場所と機会がないためです。

これらを総合的に解決するにはどうすればよいでしょうか？日本がいま世界で最も高齢化が進んでいるため、世界のどこを探しても答えは見つかりません。その答えを導き出す１つが、秋田市の取り組むエイジフレンドリーシティ政策です。東京大学高齢社会総合研究機構と秋田市は、この一環で高齢者コミュニティ活動創出支援事業を始めました。これは、とにかく居住者を閉じこもらせないことを狙いとしています。まず外に出る機会を増やしたい。そして、住民同士が挨拶をし、対話をする機会を増やしたい。その上で、考え方やライフスタイルの異なる住民同士の自発的な信頼関係を育てていき、いずれはお互い気持ち良く支え合う人生100年時代に備える地域づくりにつながるものと考えております。

コミュニティ生活環境（基盤）の３領域

図．高齢社会への対応に求められる「い・しょく・じゅう」

東部地域をもっと元気に

生活支援コーディネーター　新沼　郁美

こんにちは、広面地域包括支援センター桜の園です。地域包括支援センター（以下、包括）は、地域住民の皆さま、主に高齢者とその家族等を介護、福祉、健康、医療など総合的に支える相談窓口です。秋田市東部は、八橋包括、泉包括、旭川包括、東通包括、広面包括が町・字で担当しています。また、今年度から市内18全包括に生活支援コーディネーターを配置しています。

昨今、人とのつながり、居場所づくりによる健康効果が明らかになっています。コーディネーターは、主役である住民の皆さまと話しあいの場を設け、助けあい・支えあいの輪をみつけ、居場所・通いの場など人をつなげる地域づくりを一緒にすすめていきます。

住み慣れた地域で健やかに暮らせるよう、住民の皆さまに寄り添いながら運営してまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

いーぱるふれあいまつり

10月20日～21日

こばと保育園

「山谷番楽」

城東中学校「吹奏楽」

城東中学校「城東太鼓」

桜中学校「吹奏楽」

フラ・ハイビスカス

東部合唱サークルぱあぷる

展示風景

軽食・喫茶風景

ダンスパーティ

秋田市地域づくり交付金事業の紹介

東地区町内会連合会創立40周年記念事業について（秋田市東地区町内会連合会）

私達が住んでいる地域や町には、現在に至る歴史があります。地域や町の発展は、時間の経過と伴に「現在」をまたたくまに「過去」に変え、かつての地名・風景や出来事などが人々の記憶の中から消え、長い時間の中に埋もれていきます。何百年も続いた道がある日、突然消えてしまいます。今を記録し将来に残すことの意義がここにあります。40周年記念にあたり、東地区のあゆみ・連合会のあゆみ等、東地区の歴史をまとめてみました。

古町・神田町内ふれあい交流会について　（古町・神田町内会）

町内各種団体による催し物や町内会員が所属する音楽事務所等のご一行様を招聘し、町内に居住する子どもやお年寄りに加え、町内出身者まで一堂に集い世帯間の交流を図ったものであります。

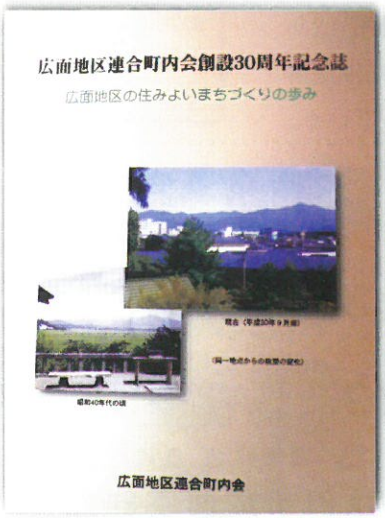
広面地区連合町内会創設30周年記念誌刊行（広面地区連合町内会）

広面地区連合町内会創設30周年記念誌を刊行しました。

29町内会のそれぞれの成り立ち、特徴的な活動の紹介など、見て楽しく読んでためになる文章満載です。

街灯もなく夜は真っ暗、雨が降ればぬかるみになり、照ればホコリの舞う町内環境がやがて整備されてきた経過も懐かしいものでした。

一面の田んぼの風景が今やひっきりなしのクルマと「高層」マンションも出現しております。



東部地域の人物・事績を訪ねて－孫左衛門堰の鎌田孫左衛門翁

太平利部周市

＊孫左衛門堰とは

孫左衛門堰は太平地内及び広面地内をかんがい区域とするかんがい用水路である。太平川の太平中関字堀内から取水し中関、目長崎、八田、柳田、広面字赤沼に至る全長12kmに及び、現在160haの水田を灌漑している。

広面地内では川崎東町内とか若杉町内に用水路として目にすることができる。

＊鎌田孫左衛門翁とは

寛政5年(1793)に南秋田郡太平村八田の酒麹製造を生業とする資産家の長男として誕生した。

鎌田孫左衛門翁が生まれた頃は、当地は300余町歩の水田が開けていたと言われるが、木材産業、薪炭業等が盛んであったこともあり、森林濫伐が進み水源の枯渇を招き、かんがい用水不足が恒常化していた。

鎌田孫左衛門翁は「水源の枯渇は山林の荒廃にあり」として植林の急務であることを叫んだが共鳴するものがなく、やむなく自ら植栽を続け百万本の植林を成し遂げ、水源の涵養に努めた。やがて四隣の干ばつを救うには疏水に頼らざるを得ないと一大決意を固めた(時に孫左衛門翁62歳の安政2年(1855)のことであった)

＊鎌田孫左衛門翁の事績－心血を注いだ一代の疏水事業

当時の疏水事業は至難の業で太平川から取水し、これを導水する幹線水路の路線を決める測量技術等の未熟さもあり、7年の路査を重ねてようやく計画を作成し、文久2年(1862)3月26日の起工に至った。この時よわいすでに70歳に達していたが、生まれ育った故郷を救う執念に燃え、私財をことごとく投じて、この疏水事業に賭ける孫左衛門翁の姿は三吉権現の化身として映り、周囲の理解と協力は夫役、資材調達となって日毎に相次ぐようになっていった。

こうして鎌田孫左衛門翁の心血を注いだ一大事業は2年3ヵ月余りを費やした工事をもって、元治元年(1864)6月ついに竣工をみるにいたり、従来溜池掛りの水田330町歩の用水不足は解消された。疏水事業完成後も鎌田孫左衛門翁は引き続き関連工事に着手していたが明治元年(1867)8月26日、享年75歳を一期に沼水開墾に捧げた生涯を終えた。

地域住民は、この用水路に「孫左衛門」の堰名を冠しその功績を讃え、大正13年6月1日太平村役場(当時)地内に頌徳碑を建立し、永くその偉業を記念している。

編集後記

平成の年号で発行する最後になる第4号です。(新しい年号は?)

なんと字面が多くて面倒だと"チコちゃん"に叱られそうです。まぁまぁ、人生100年時代を迎えて、頭の切り替えの必要なところと、これまでの歴史、人物・事績に感慨も新たにしてみるのもいいでしょう。

秋田市東部市民サービスセンター いーぱる

[施設利用の申込み]

TEL.853－1683　FAX.834－1863

[取扱業務の問い合わせ]

TEL.853－1039　FAX.834－1829

[URL]http://www.city.akita.akita.jp/sc/es/

[所在地] 〒010-0041 秋田市広面字釣瓶町13番地3